令和２年度二本松北小学校　学校だより　Ｎｏ．９６

輝け！北っ子！

令和３年　１月２９日

文責：校長　大内雅之

令和３年度　学校経営・運営ビジョン
～次年度に向けて検討中～

３学期も残すところ３５日。いよいよ来週からは２月に入ります。学校では、今年度のまとめに力を入れているところですが、同時に来年度の計画についても細部にわたり検討しています。

校長として、先生方にはまず、「こんな学校にしたい」という目指す学校像を提示しました。原文のまま提示します。

◆◆◆◆◆【目指す学校像】◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

令和３年度の教育課程は**依然「コロナ禍」を想定**したものとなる。新型コロナウィルスへの対応は常にできる限りのことを行い、子ども達の**「命」を守ることを最優先**としていくことについては揺るぎがない。しかしながら、コロナ禍であっても子ども達の学校生活／学びが止まるわけではなく、よりよい学校生活を目指す、**充実した一年にする**という目的は何ら変わりがない。ねらいに立ち返り、「コロナ禍でできない」ではなく**「コロナ禍でもできる」「コロナ禍だからこそできる」**内容・方法を模索し、実現していく前向きな教育活動を進めていきたい。

施設が・・・環境が・・・お金が・・・忙しくて・・・などのできない理由を並べ活動の削減・停滞というマイナス方向に進むのではなく、今ある状況の中で**前を向き**，ひたすら子どもと共によりよい教育を目指していく，教員も子どもも毎日が楽しく，**エネルギーに満ちあふれた学校**にしたい。「結果」については最終的な産物であると考えているが，北小で学び、先生方、友達と関わることで、子どもの達のもっている資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）を少しでも引き出し、伸ばすこと（結果を出すこと、子どもをよい方向に導くこと）には責任をもたなければならない。我々教員は教育のプロであり，教育に携わることで給料を得ているのであるから。

また、学校（学級）のよさはなんといっても**「集団」**にある。集団の中にいるからこそ、多様な考え方を知り、折り合いを学び、**これからの社会により必要となる最適解・納得解の導き出し**方を現実の対応の中で学ぶことができるのである。個への対応はもちろん大事であるが、是非、集団を大事にし、集団を育てていきたい。集団での思考・活動を通して、集団のよさを実感するとともに、集団を構成する個のよさにも気づき、集団とともに個が成長していく学校を目指したい。

《子どもは》元気 - 笑顔 - やさしさ

○　**元気いっぱい　いつもハツラツとしている子ども**
　明るいあいさつ／生き生きと自分から活動／声に張り／自分の思いを言葉にする
　規律の意識をもつ（例　ろうかを走る→先生を見つける→止まる・ばつ悪そうに・・・）

○　**挑戦を繰り返し，立ちあがる子ども（レジリエンス）**
　とにかくやってみようとする／失敗してもめげない／根拠のない自信

○　**パワー全開で楽しむ・活動　超まじめに参加するメリハリのある子**
　やるときはとことんやり尽くす／まじめな場面は本気で／振れ幅の大きさ
　自分のやりたいことの自己主張－友達のやりたいこと　折り合いをつける

○　**自分以外の人のためにも精一杯活動できる思いやりのある子**
　自分の時間をけずってでも／友達を尊重する

《教師は》愛情 - 情熱 - 行動 - 専門性　※風の人として

○　**子どもを信じ、「人間」として、「子ども」として、「大人になる成長過程にあるもの」として愛せる教師**

○　**よりよいものを目指し，アイディアを現実化していく前向きな教師**
　社会人としての常識、愚痴なし
　やってみたいことをやってしまう／周りを巻き込む　→　「あとは○○が責任もつから」

○　**子どものもつ力を引き出すことにエネルギーを注げる教師**
　力をつける技量・責任／必要とあれば／公務員の枠を超えてでも／思い出

○　**子どもに　保護者に　地域に　刺激を与えられる教師**
　今の時代に必要なことを　新しい情報を

○　**「教師力」の向上に向けて、専門性磨きに努力できる教師**
　あの教科（領域）、指導、○○なら／よりよい教育活動の実践者

《保護者 - 地域は》愛情 - 協力　※地の人として

○　**学校との家庭・地域との密接な関係　双方向性をもって**
　参加・協力　→　自分の意見をもった上での協力・交流（言い合える関係）

○　**子どもにたっぷりの愛情を注ぐ保護者・地域**

上記のようなことを考えています。この目指す学校像に北小の実態を照らして、より具体的・戦略的な学校経営をしていきたいと考えているところです。この続きはまた次号以降でお伝えします。